

伊賀市立桃青の丘幼稚園の 「認定こども園」移行検討について

2025(令和7)年度 第1回伊賀市総合教育会議

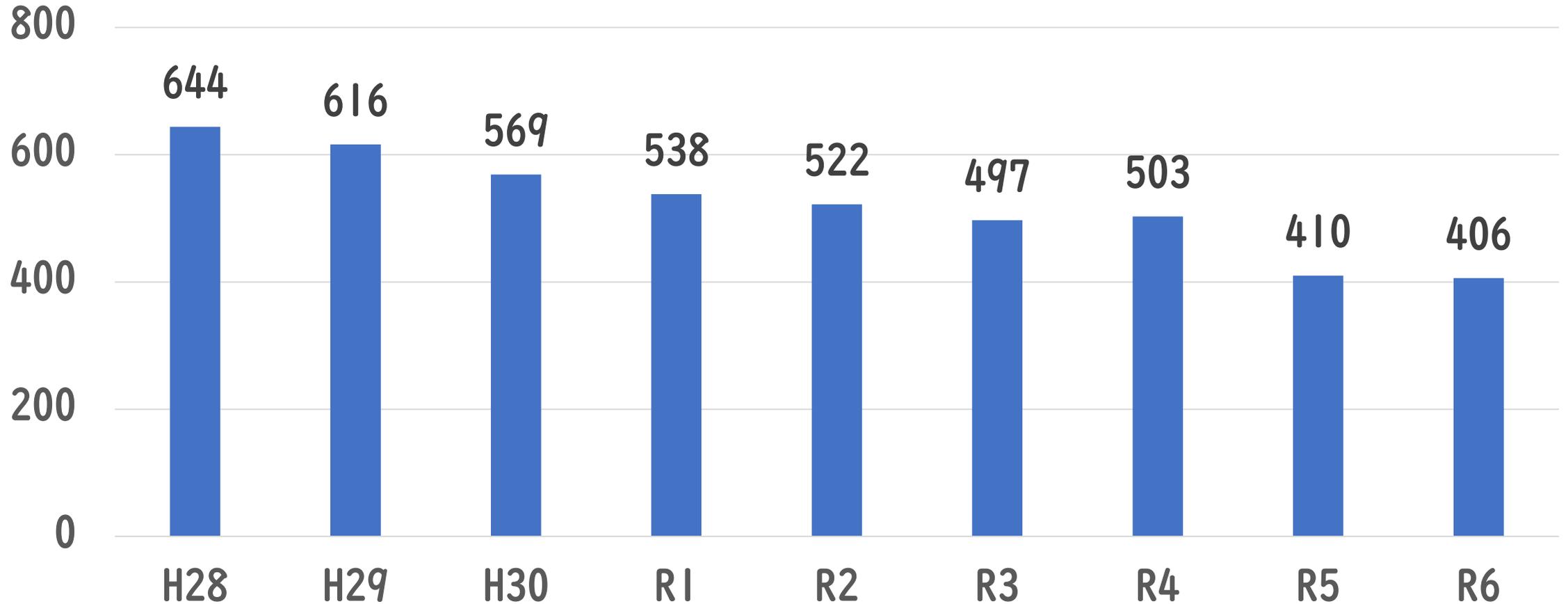
2025(令和7)6月17日

伊賀市健康福祉部保育幼稚園課

- 1 伊賀市の現状について
- 2 幼稚園と認定こども園の違いについて
- 3 桃青の丘幼稚園の現状について
- 4 認定こども園移行検討の主な理由

◆伊賀市の子ども達の現状

出生数の推移

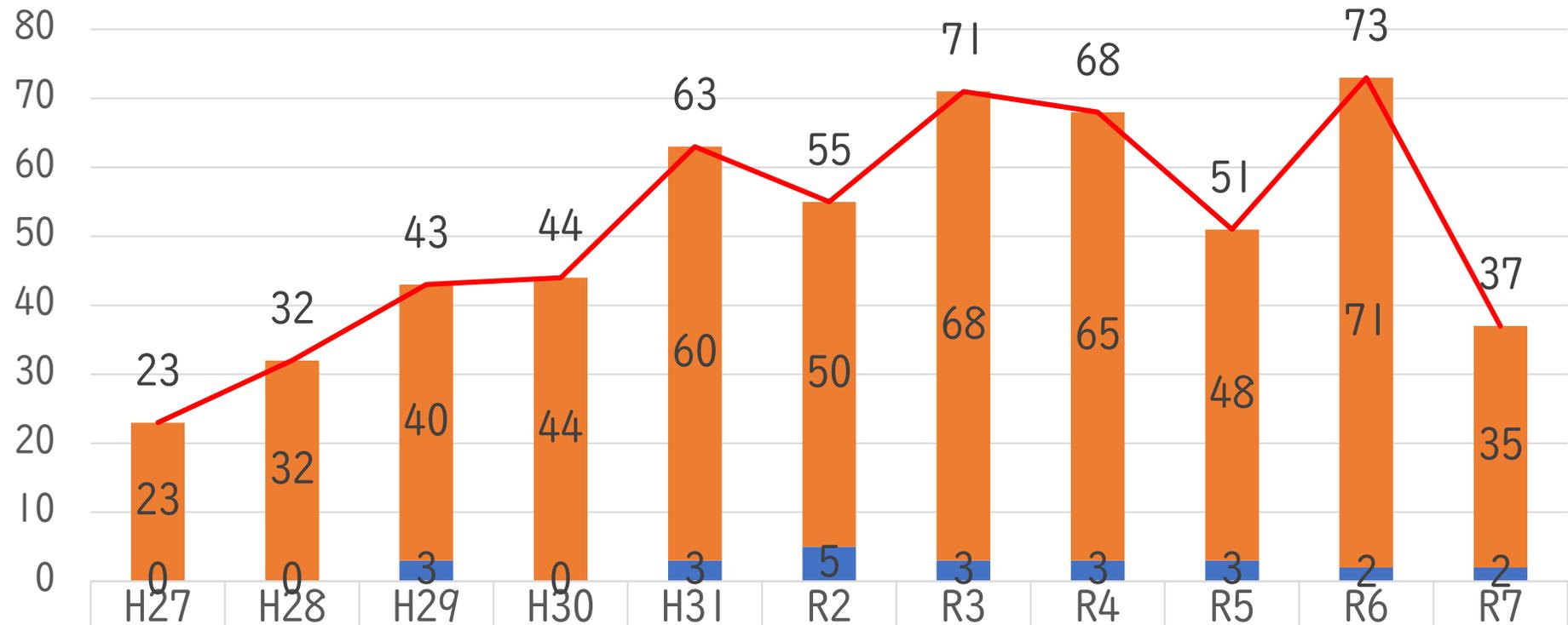


9年間で238人減少 (▲37%)

出典：三重県月別人口調査（年報）各年10月1日現在

◆伊賀市の待機児童

待機児童・私的待機児童の推移



私的待機児童	23	32	40	44	60	50	68	65	48	71	35
待機児童	0	0	3	0	3	5	3	3	3	2	2
合計	23	32	43	44	63	55	71	68	51	73	37

◆校區別の待機児童

上野地区			上野地区以外		
	人数	割合		人数	割合
上野西小学校	13	35.1%	柘植小学校	0	0.0%
上野東小学校	7	18.9%	西柘植小学校	2	5.4%
久米小学校	2	5.4%	壬生野小学校	0	0.0%
上野北小学校	1	2.7%	島ヶ原小学校	0	0.0%
三訪小学校	0	0.0%	阿山小学校	1	2.7%
府中小学校	1	2.7%	大山田小学校	1	2.7%
中瀬小学校	2	5.4%	青山小学校	1	2.7%
友生小学校	3	8.1%	上野地区以外計	5	13.5%
上野南小学校	2	5.4%			
成和東小学校	1	2.7%			
成和西小学校	0	0.0%			
上野地区合計	32	86.5%	伊賀市合計	37	100.0%

◆伊賀市の保育・幼児教育を取り巻く課題

・出生数の大幅な減少

→地域によっては利用者数が大きく減少し、適正な規模での保育が困難な保育所も

・低年齢児（0～2歳）保育ニーズの高まり

→私的待機児童が増加し、働きたくても働けない世帯が増加

・支援が必要な児童の増加

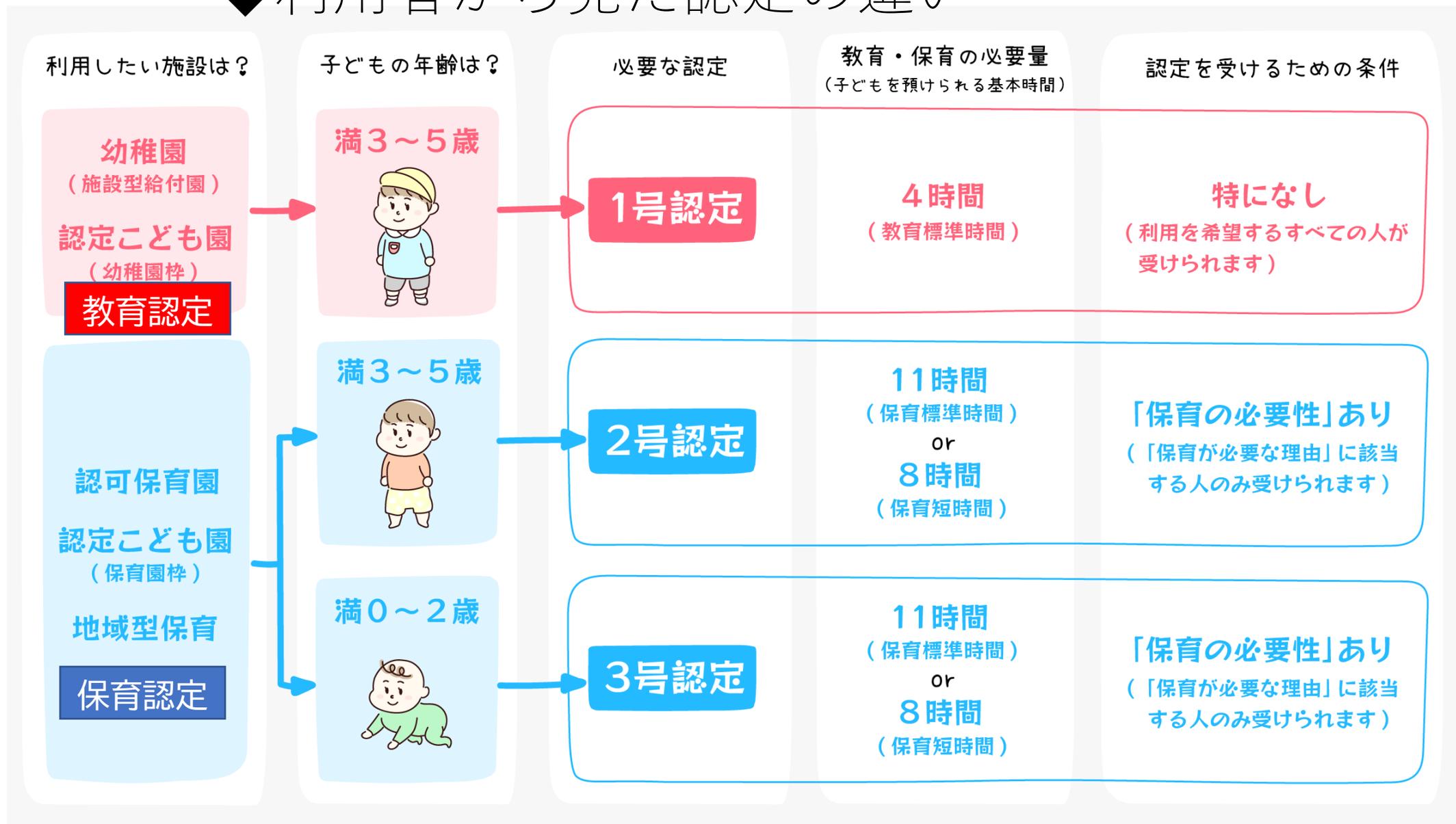
→インクルーシブ保育の推進による加配保育士の増員必要

◆保育所・幼稚園・認定こども園の違い

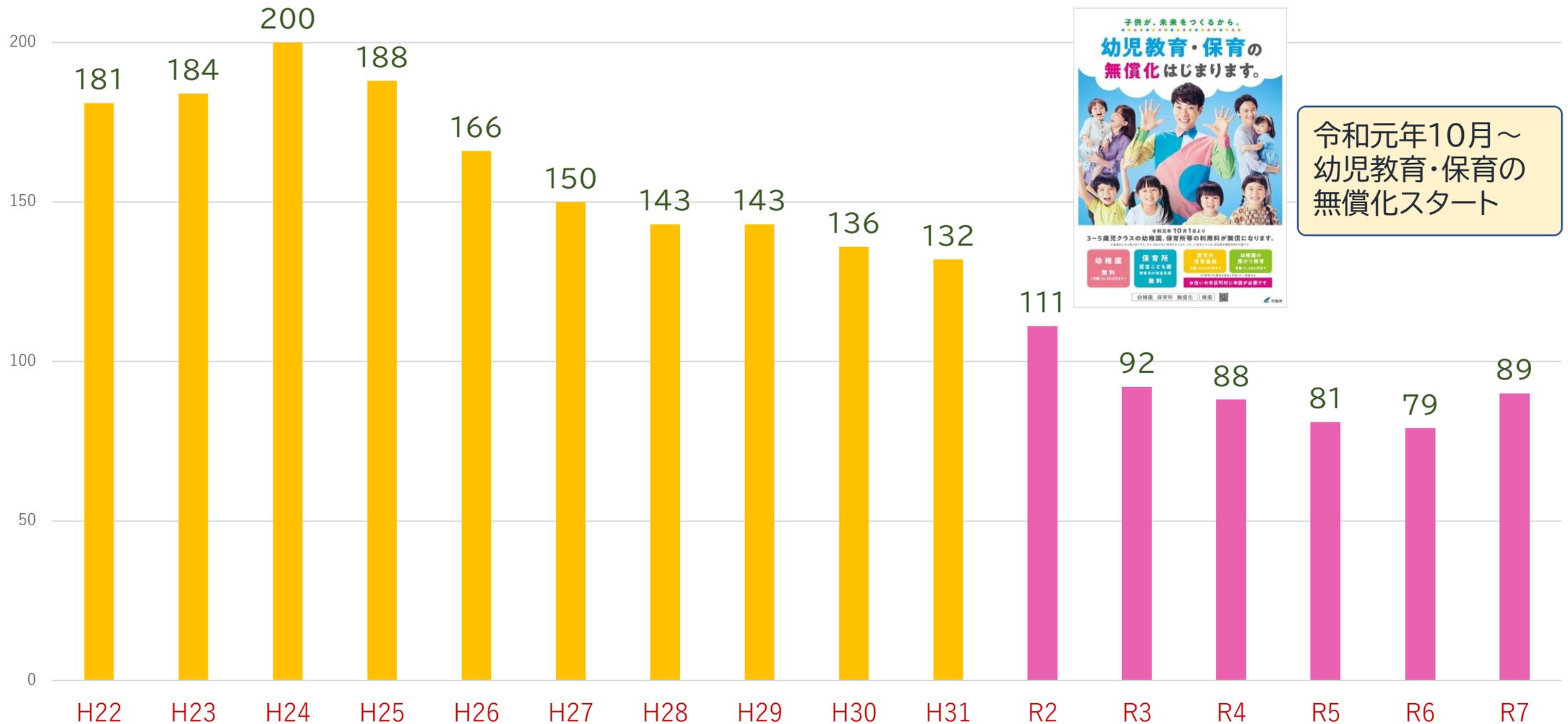
	 認定こども園	 保育所	 幼稚園
管轄省庁	内閣府	厚生労働省	文部科学省
施設の位置づけ	園により異なる	児童福祉施設	教育施設
利用できる年齢	0歳～就学前	0歳～就学前	3歳～就学前
利用できる認定区分	1・2・3号認定	2・3号認定	1号認定
標準的な保育時間	4～11時間	8～11時間	4時間
保育料	世帯収入などに応じて自治体が定めた金額	世帯収入などに応じて自治体が定めた金額	園により異なる
保育者の資格	保育教諭・保育士・幼稚園教諭	保育士	幼稚園教諭
給食の提供	義務	義務	任意

※ 地域や園により異なる場合があります

◆利用者から見た認定の違い



桃青の丘幼稚園（入園児数 各年度4月1日時点）



令和元年10月～
幼児教育・保育の
無償化スタート

桃青の丘幼稚園の「認定こども園」

へ移行検討する主な理由

- ①市街地における待機児童の解消
- ②幼児教育の推進（3歳未満児の受入）
- ③給食提供による食育推進、保護者負担軽減

※工事は必要であるが、園児の減少に伴い、こども園に必要となる給食調理・保育スペースを確保しやすい。

稲森市長の2025年施政方針から(抜粋)

●保育士の確保・働き方改革

- ・「みんなのえがおサポーター」(用務員)を全園に配置。
- ・私立保育所等に就職される正規雇用の就職者に就労支援金を交付事業の実施

●小規模保育所(園)の活性化

●待機児童の解消と幼児教育・保育の充実

- ・私的待機児童が多い上野地区では、地域型保育事業の検討や既設の保育園の再編協議を行い、令和7年度以降の上野地区の受入人数の増加を目指す。
- ・伊賀市立桃青の丘幼稚園について、就労状況に関わらず幼児教育を受けることができ、かつ3歳未満児の保育ニーズに応えることができる認定こども園への検討に向けて、保護者、幼稚園教諭との話し合いを進めていきます。